

えひめ 安全運転管理

発行所 愛媛県安全運転管理者連絡協議会 松山市若草町7番地 編集者 石原 実

平成23年 年末の交通安全県民運動

期 間 12月21日(水)～12月31日(土)

スローガン ゆずりあい 無事故で年末 えがお^え顔で年始

運動の目的

この運動は、県民一人ひとりに交通ルールの遵守と正しい交通マナーの実践を呼びかけ、県民の交通安全意識の高揚を図り、年末期における交通事故防止の徹底を図ることを目的としています。

運動の重点

①高齢者の交通事故防止

高齢者（運転者、歩行者）に対する思いやり運転をしましょう。

②飲酒運転の根絶

「飲んだら乗らない」「乗るなら飲まない、飲ませない」を徹底しましょう。

③夕暮れ時と夜間の交通事故防止

夕暮れ時、夜間に外出する際は、反射材等の着用を習慣付けましょう。

安全運転管理者事業所での推進事項

- 夕暮れ時のライト点灯や前照灯のこまめな切り替えを習慣付けましょう。
- ドライバーの安全運転意識の向上、アルコールチェッカーの導入など、事業所全体で交通事故の防止、飲酒運転の根絶を徹底しましょう。
- 日常点検を徹底し、自動車・二輪車の安全運行に努めましょう。
- シートベルト及びチャイルドシートの完全着用を徹底しましょう。

目指せ！ 交通死亡事故絶無！

職場で、家庭で、学校で、地域で、県民総ぐるみで交通事故をなくしましょう

飲酒運転の根絶（ハンドルキーパー運動）

飲酒運転の危険性や反社会性、事故を起こした際の責任の重大性を自覚しましょう。

「ハンドルキーパー運動」とは、自動車仲間たちと飲食店に行き、飲食する場合、同行したメンバーのなかでお酒を飲まない人（ハンドルキーパー）を決めておき、その人がお酒を飲まずに仲間を自宅まで送り届ける運動です。

職場で忘年会や歓送迎会などを催す場合には、この運動を積極的に取り入れて飲酒運転を根絶しましょう。

家族の一員が飲酒運転により事故を起こすと、家族全員が不幸になり、悲惨な結果を招きます。飲酒運転を家族ぐるみで根絶しましょう。



交通事故のリスク

社有車の管理だけでは不十分（使用者責任）

交通事故を起こして他人に損害を与えれば、その損害を賠償する責任が生じます。

この賠償責任は、事故を起こした本人である運転者個人にあるのは当然ですが、運転者が勤務する企業も責任を負わされるケースも多くあります。

交通事故の賠償問題は、社有車の管理だけで十分と思われがちですが、従業員個人の車や貸用車、関連企業の車による事故の責任まで負わされる場合があるので、社有車の管理だけでは不十分です。

民法第715条では、従業員の起こした事故の賠償責任を免れるためには、使用者が業務の監督について過失がなかったことを立証しなければなりません。

企業の危険管理のためには、賠償責任についての基本的な法律知識をしっかりと頭に入れておく必要があります。



交通事故に伴う4つの責任

1 刑事上の責任

事故によって人を死傷させると、過失がある限り「自動車運転過失致死傷罪」の刑事責任を負います。

また、酒酔い運転等の故意・悪質性の高い危険な運転で死傷事故を起こすと「危険運転致死傷罪」が適用され、より厳しい処罰の対象となります。

2 行政上の責任

違反を犯した場合には、その内容や回数によって、運転免許の停止・取消し処分や交通反則通告制度に基づく通告処分があります。

行政処分は刑罰ではありませんが、運転業務に携わっている者にとって厳しい処分です。

3 民事上の責任

事故により他人を死傷させたり、財産に損害を与えた場合は、損害賠償の責任を果たさなければなりません。

損害賠償の方法は、金銭による支払いが原則となっていますが、賠償額は何千万、億単位の金額になることもあります。

4 社会的責任

企業は、事業活動のために公共の道路を利用して自動車を運行させるなど、広く社会を基盤にして存在しています。

したがって、事故によって社会への危害を加えたり、迷惑を及ぼしたことに対して、社会的責任があります。

自転車シミュレーターを活用して自転車事故をなくそう

愛媛県警では、走行体験により自転車の正しい乗り方が学べる「自転車シミュレーター」を4台導入し、交通安全教室等においてこれを活用して、自転車の正しい乗り方や、マナーの向上を図り自転車事故の防止に努めています。

自転車のマナーアップを図るため、各事業所においても自転車シミュレーターを活用して、自転車事故をなくしましょう。

使用申込みは、概ね2週間前までに開催地警察署に要請書により申込みをして下さい。

お問い合わせ先：●愛媛県警察本部 交通部 交通企画課
交通安全教育係（☎089-934-0110）
●開催地警察署



自転車シミュレーターの活用

わが社の交通安全管理

安全運転管理者講習 事例発表



マルトモ株式会社 管理本部副本部長 兼 人事部部長 鶴家 澄成

会社の概要

- ・本社 伊予市米湊
- ・創業93年
- ・従業員数 660名
- ・国内8支店
- ・7工場
- ・主力商品 削り節、花かつお
- ・車両保有台数 120台
- ・平成23年に四国管区交通安全優良事業所表彰受賞

1 車両はカーリース

車両は自社所有ではなく、メンテナンスを含めたオペレーティングリースです。

内容としては、3ヶ月毎の自動車工場によるコンディションチェック、法定点検、車検の管理をリース会社に委託しています。点検時期を忘れることもないし、忙しくてなかなか修理工場に行かない社員がいても催促し、全車メンテナンスを受けることができます。

2 自社における車両管理

- ・「車両点検表」による始業点検を実施し、毎月本社に提出させ、確認しています。
- ・「車両管理表」を作成し、車両の月次走行キロ数、ガソリン使用量を報告させて、燃費を計算して異常値がないかを管理しています。

車両点検表

1. 運転者は1日1回運転開始前に下記の箇所を点検しなければならない。
2. 運行不能と認めた時は、車両管理者に報告し指示を受けなくてはならない。

車種	ナンバー	管理者名	乗車責任者							
軽四	愛媛41ま1234	印	印							
点検箇所	点検内容	1	2	3	4	5	6	7	8	
1. ハンドル	操作に異常はないか	○			○	○	○	○		
2. ブレーキ	ブレーキの作用は十分	○			○	○	○	○		
3. タイヤ	空気圧タイヤの損傷	○			○	○	○	○		
4. エンジン	排気の色は良いか	○			○	○	○	○		
5. 灯火装置	点滅は完全か	○			○	○	○	○		
6. 方向指示器	作動は完全か	○			○	○	○	○		
7. 計器	作動は完全か	○			○	○	○	○		

3 安全運転の啓蒙

社員には、ほぼ1人1台のパソコンを配布し、社内イントラネットの環境を構築しています。

そのパソコンを使い、安全運転啓蒙に関するチラシ、ポスターやエコドライブの啓蒙資料を社員のパソコン画面に配信して、安全運転の啓蒙を行っています。

また、新入社員の研修カリ



キュラムに、交通事故防止と交通事故処理などの教育を入れ、外部講師を招いて、交通安全教育を実施しています。

4 危機予知訓練

「危機予知診断ソフト」の入ったパソコンを使用して、パソコンのタッチパネルに写しだされる、交差点を走行する実車映像を見て、危険と思われる箇所をタッチすることで診断します。

診断内容は5項目で、

- ・危険発見の早さ
- ・危険発見の正確さ
- ・顕在的危険発見能力
- ・相手の動きの予測性
- ・ヨミの積極性

で、即座に結果が出て、自分の運転の傾向を客観的に知ってもらい、その傾向にあった事故防止のアドバイスを行っています。

5 KM式安全運転助言検査

九州大学文学部心理学研究所で開発した検査方法をベースにした運転心理テストを行っています。

不安定度

認知、反応時間の不安定性（ばらつき）を測定し、F1～F5の5段階で評価

先急ぎ度

自動車の運転速度を高めたり、車間距離を短くしたり、信号無視、一時停止無視をするような傾向を測定し、H1～H5の5段階で評価

その結果、25のマトリックスのうちの安定している9つの区分に入る社員は195名で84%、どちらかが1ランク下が29名で13%、どちらかが2ランク下が6名で3%でした。

社員には、検査結果を伝え、そのランクに応じた具体的なアドバイスを行っています。

単に「気をつけろ」ではなく、具体的に「安全の確認より運転操作を優先する可能性あり。安全の確認をした後で、発進、進路変更などの操作をしよう。」など、よりきめ細かなアドバイスを行い、事故防止を図っています。

安全運転管理者は事業所内の安全運転管理の最高責任者

エコドライブは安全運転

エコドライブは、環境を保護し、事業所に経済的利益をもたらすだけでなく、安全運転にも良い影響を与える運転法です。そしてエコドライブは、特別な装置や改まった教育・指導を必要とするものではなく、「誰でも」「簡単に」「その日から」実行できるものであり、事業所に多くのメリットをもたらします。

運転者に、エコドライブを意識付けましょう。

エコドライブのポイント10

1 道路情報を事前にチェックしよう

1時間の運転で道に迷い、10分間余計に走ると燃費が14%程度ダウンします。

行き先及び走行ルートを事前に調べておきましょう。



6 無用なアイドリングはやめよう

10分間アイドリングをすると、130cc程度の燃料を浪費します。

待ち合わせや荷物の積み降ろし時はアイドリングをやめましょう。



2 やさしい発進を心がけよう

緩やかに発進すると、燃費が約11%改善します。

発進時のアクセルペダルの踏み込みを緩やかにしましょう。



7 エアコンの使用は控えめにしよう

外気温25°Cでエアコンを使用すると、燃費が約12%ダウンします。

気象条件に応じてこまめに調整しましょう。



3 加減速の少ない運転を心がけよう

加減速が多いと、市街地では燃費が約2%ダウンします。

車間距離に余裕を持たせ、一定のスピードで走行しましょう。



8 タイヤの空気圧を適正に保とう

タイヤの空気圧が適正値より50kPa不足すると、市街地で燃費が2%程度ダウンします。

空気圧を定期的にチェックをして、適正に保ちましょう。



4 エンジンブレーキを活用しよう

エンジンブレーキを使用すると、燃費が2%程度改善します。

停止位置がわかれば、早めにアクセルから足を離して減速しましょう。



9 不要な荷物は降ろそう

100kgの不要な荷物を載せて走ると、燃費が約3%ダウンします。

運ぶ必要のない荷物は車から降ろしましょう。



5 エンジンがかけたらすぐに発進しよう

5分間暖機すると、160cc程度の燃料を浪費します。

寒冷地などを除き、エンジンをかけたらすぐに発進しましょう。



10 違法駐車は絶対にやめよう

駐車車両により平均車速が時速40kmから20kmに落ちると、31%程度の燃費悪化に相当すると言われています。



事務局だより

当協会に対する、ご意見、お問い合わせ等がありましたら、事務局にご連絡下さい。

愛媛県安全運転管理者連絡協議会 事務局
松山市若草町7番地（警察本部第2庁舎内）

TEL/FAX 089-921-4399

ホームページもご利用下さい。

URL: <http://www.ehime-ankankyoku.jp/>